

ペテロの手紙 第一4:7-19

1ペテロ 4:7 万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。

ペテロは、時間が非常に限られていると感じていました。ペテロや当時の多くのクリスチャンにとっては、本当にそうでした。多くの者がローマ人の迫害によって死んだからです。でも、日本にいる私たちは死に直面するほどの迫害は受けていない、という人がいるかもしれません。そのとおりです。とは言え、私たちも実際、永遠の世界に入る一步手前のところにいます。誰も命を保証された人はいません。終わりのときが私たちの思ったより早くやってくるかもしれません。そういうわけで、ペテロは当時の信徒たちをこのように励ましました。その励ましは、今日の私たちにも向けられています。「祈りのために、心を整え身を慎みなさい。」自分の人生の終わりが近いと知っていたら、どんなふうに祈るでしょう。自分の人生の終わりが近いと知っていたら、どのように生きるでしょう。心を整える必要があるとペテロは言います。

ここで使われたギリシャ語の単語は「ソフロネオ」です。その意味は、

- 1) 正気であること
- 2) 冷静であること

自分の人生について真剣に考える必要があります。その価値、目的は何か、またどのように人の思い出に残るか、ということ。こんな言葉を聞いたことがあります。「あの人がいるとその場が和む、と言われる人もいれば、あの人がいなくなるとその場が和む、と言われる人もいる。」あなたがなくなって、人はせいせいするのでしょうか。それとも悲しむのでしょうか。それとも、どうでもよいと思うのでしょうか。どのように人の思い出に残りたいと思いますか。

後悔したくなるような過去は誰にでもあるでしょう。しかし、今言っているのは、これからのことです。過去は変えられませんが、残された人生を最終的にどのようなものにしたいと思えますか。多くの人は過去にとらわれすぎて、将来への希望を持たずにいます。もしあなたがその一人なら、使徒パウロのこんなアドバイスに耳を傾けてくれることを祈ります。

ピリピ 3:13-14 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えるはしません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、**14** キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標をみざして一心に走っているのです。

後ろを振り向いてはいけません。とにかく前にあるものを目指して前進あるのみです。今日という日は主が造ってくださったのですから、この日を喜びましょう。私たちの過去がどれほど汚れていても、私たちの前途は真っ白です。まだ私たちの手で汚されていません。神の助けを得るなら、将来を汚さなくてすむのです。

1ペテロ 4:8 何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。

何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。この愛はギリシャ語のアガペです。無償の愛、それは、神が私たちを愛してくださる愛です。この愛のおかげで、私たちの罪はすべて取り除かれました。この同じ愛が、互いの間で多くの罪をおおうのです。クリスチャンの交わりが愛に満ちていれば、小さな罪はもちろん、大きな罪でさえ、赦して水に流してもらえます。しかし、愛が足りないなら、何を言っても悪く取られ、何をしても誤解されます。その結果、互いへの愛の欠如が原因で争いが起こります。人を愛することによって、私たちは神の愛をその人たちに示します。それは、神が愛だからです。けれども、この愛を私たちはどのように示せばよいのでしょうか。

1ペテロ 4:9-10 つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい。 **10** それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。

親切にもてなし、他の人の祝福のために、与えられた賜物を用いなさい。水曜日の午後一時半から、ブライアン牧師が御霊の賜物についての学びを教えておられます。ここでは一言で言うことにします。神はすべてのクリスチャンに聖霊を賜物として与えてくださいました。聖霊は、すべての御霊の賜物の源です。イエス・キリストの教会は、からだのようなものです。ですから、からだのように機能します。少なくとも、それが本来の姿です。からだのそれぞれの部分には、果たすべき役割があります。私たちは皆、賜物を受けています。そして、神の愛をもって惜しみなく自らをささげるべきです。なぜ神は、私たちが互いに愛を示しあうことを望んでおられるのでしょうか。それは、こういうわけです。

1ヨハネ 4:12 いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。

私たちの人生をとおして、神の愛が表されるからです。私たちが愛を示さなければ、人々は神の愛を知ることができません。

1ペテロ 4:11 語る人があれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、それにふさわしく奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。栄光と支配が世々限りなくキリストにありますように。アーメン。

ここで注目すべきポイントが3つあります。

#1 「語る人があれば、神のことばにふさわしく語り」

つまり、神の代理で何かを語るというなら、その人をとおして神ご自身が語られるようであればならないということです。どうすればそうできるのでしょうか。簡単です。神のみことばを分かち合えばよいのです。聖書を引用するのです。詩篇の著者は 次の箇所でも強調しました。

詩篇 119:105 あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。

神の御言葉は私たちの人生を暗やみから光へと変える唯一かつ最も有効なツールなのです。イエスはこうおっしゃいました。

ヨハネ 8:32 そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

だからこそ、私たちはいつでも機会のあるたびに神のみことばを分かち合うべきなのです。それは、人々が真理を知り、自由になるチャンスを得るためです。ですから、ペテロのひとつめのアドバイスは、「語る人があれば、神のことばにふさわしく語り」なさいです。

#2 「奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、それにふさわしく奉仕しなさい。」

神は私たちにすでに与えておられるもの以上のことを望まれません。そのことを知っているととても心強いです。このことを理解していないと、奉仕に疲れてしまいます。多くの人々が実際そうになっています。なぜなら、自分の弱さや無力さに目を向け、「神のために何かしたいけど、何をやってもうまくできない」と思うからです。または、自分よりも上手にできる人が他にいると思うからです。けれども、神は私たちにすでに与えておられるもの以上のことを望まれません。また、私たちに欠けているものは何でも、神が補ってくださいます。神が命じられるなら、それをする能力も与えてくださいます。神が心に何かをするよう示してくださいましたのなら、力も知恵も方法もすべて与えて、示されたことができるようにしてくださいます。問題は、私たちにこのことを信じる信仰があるかどうかです。ペテロはこのようにも言いました。

#3 「それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。」

イエスはこうおっしゃいました。

マタイ 5:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

神は私たちが有名にしてあげようとか、名声を与えようなどとは思っておられません。神はご自身の御名に栄光をもたらすことを願っておられます。詩篇の著者はこう語ります。

詩篇 115:1 私たちにではなく、【主】よ、私たちにではなく、あなたの恵みとまことのために、栄光を、ただあなたの御名にのみ帰してください。

神が与えてくださる能力を用いて私たちが奉仕するとき、そのような真の奉仕は常に神に栄光をもたらします。私たちにスポットを当ててるではありません。

神が助けてくださって、私たちが次のようにすることができますように。

- 1) 神のみことばを互いに分かち合い、勧め、励まし、慰め合うことができるように。
 - 2) 神が与えてくださった賜物や才能、能力を、信仰を持って用いることができるように。
- そして
- 3) どのような言動においても、神に栄光と賛美がもたらされることをできるように。

1ペテロ 4:12 愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、

これはすばらしい聖句です。私たちに悪いことが起こらないという考えはどこから来たのでしょうか。周りに傷ついた人がたくさんいるのに、そのような苦しみはクリスチャンには起こらないことのように私たちは思っています。そんなことはないでしょう。試練は必ずやってきます。聖書ははっきりそう語ります。試練がやってきても変だと思わないようにしましょう。

1ペテロ 4:13 むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びおどる者となるためです。

ペテロの手紙でこれまでに学んだように、ここは、悪いことをして苦しむ話をしていっているではありません。悪いことをして苦しむのは当然です。ここで語っているのは、キリストの苦しみにあずかる者として良いことをして苦しむことです。キリストも良いことをして苦しみに遭われました。その苦しみは、私たちのための苦しみです。ですから、私たちが苦しむなら、それは喜ぶべきことです。それは、良いお方が味方だからです。イエスは言われました。

マタイ 5:11-12 わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。 **12** 喜びなさい。喜びおどりなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。

良いことをして苦しむなら、・・・神をたたえましょう！天にある私たちの報いが大きいからです。神を賛美します！私たちの人生は、永遠の価値あるものための戦いだった、と。

1ペテロ 4:14 もしキリストの名のために非難を受けるなら、あなたがたは幸いです。なぜなら、栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくくださるからです。 **15** あなたがたのうちのだれも、人殺し、盗人、悪を行う者、みだりに他人に干渉する者として苦しみを受けるようなことがあってはなりません。

悪いことをして苦しんでも、報いはありません。自業自得だからです。

1ペテロ 4:16 しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、恥じることはありません。かえって、この名のゆえに神をあがめなさい。

聖書の中で、「キリスト者」という単語は3回使われていますが、ここがそのひとつです。アンテオケの教会の人々がそう呼ばれました。そこで初めて「キリスト者」すなわちクリスチャンと呼ばれたのです。それは、キリストに似た、という意味です。この人たちはキリストに似た人たちだと言っていたわけですが。この名前にふさわしく生きるの是一生の課題です。イエス・キリストは、互いに愛し合いなさい、敵を愛しなさい、互いに赦しあいなさい、と教えたお方です。人の教えではなく、神の掟に固く立ったお方で

す。その掟とは、自分を愛するように隣人を愛せよ。父母を敬え。盗むな。偽証するな。うそをつくな。姦淫するな。殺すな、などです。このような掟に悪い所はあるでしょうか。恥じることはひとつもありません。本当に恥じるべきことは、これらの掟を守らないことです。それによってあらゆる痛み苦しみが引き起こされます。聖書はそれを罪と呼びます。私はクリスチャンだと胸を張って言います。迫害されようと、のけ者にされようと、社会から取り残されようと、神をたたえます！真のクリスチャンと呼ばれるにふさわしいと見なされたのですから。キリストのように、正しいことのために戦ったのですから。

ローマ 1:16 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、**信じるすべての人にとって**、救いを得させる神の力です。

1ペテロ 4:18 義人がかろうじて救われるのだとしたら、神を敬わない者や罪人たちは、いったいどうなるのでしょうか。

福音に従わない人たちはどうなるのでしょうか。福音に対してまったく背を向けて拒絶し、悪く言う人たちはどうなるのでしょうか。従うことを拒む人たちには、どのようなことが起きるのでしょうか。イエスはこうおっしゃいました。

マタイ 13:41-42 人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行う者たちをみな、御国から取り集めて、**42** 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ざしりするのです。

パウロはこう警告します。

エペソ 5:6-8 むなしいことばに、だまされてはいけません。こういう行いのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです。**7** ですから、彼らの仲間になってはいけません。**8** あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあつて、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。

1ペテロ 4:19 ですから、**神のみこころに従ってなお苦しみに会っている人々は**、善を行うにあたって、真実であられる創造者に自分のたましいをお任せしなさい。

ペテロは、「神のみこころに従って」と言います。私たちが苦しんでいるのは、神のみこころに沿ったことなのかもしれません。ペテロと弟子たちも神のみこころに従って苦しみました。イエス・キリストご自身も神のみこころに従って苦しみに遭われました。イエスはおっしゃいました。

ヨハネ 6:38 わたしが天から下って来たのは、自分のところを行うためではなく、わたしを遣わした方のみところを行うためです。

マルコ 8:31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日の後によみがえらなければならないと、弟子たちに教え始められた。

1ペテロ 4:19 ですから、**神のみこころに従ってなお苦しみに会っている人々は**、善を行うにあたって、真実であられる創造者に自分のたましいをお任せしなさい。

では、神のみこころに従って苦しむ時、私たちはどうすればよいのでしょうか。ペテロは、自分のたましいを神にお任せしなさいと語ります。一方で、この世のはかない楽しみのために永遠のたましいをふいにしてしまう人がたくさんいます。イエスはこう問われます。

マタイ 16:26 人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得があらましよう。そのいのちを買い戻すのには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。

問うべきは、「たましいと引き換えに何をするか」ではなく、「たましいを守るために何を捨てるか」です。神は、富や健康、人間関係など、この世のすべてのものに勝る尊いものを私たちにくださいます。し

かも、無償でくださるのです。神の愛と赦し、そして永遠のいのちは、私たちに無償で与えられます。それは、カルバリの十字架のおかげです。私たちはそれを受け取る気があるでしょうか。